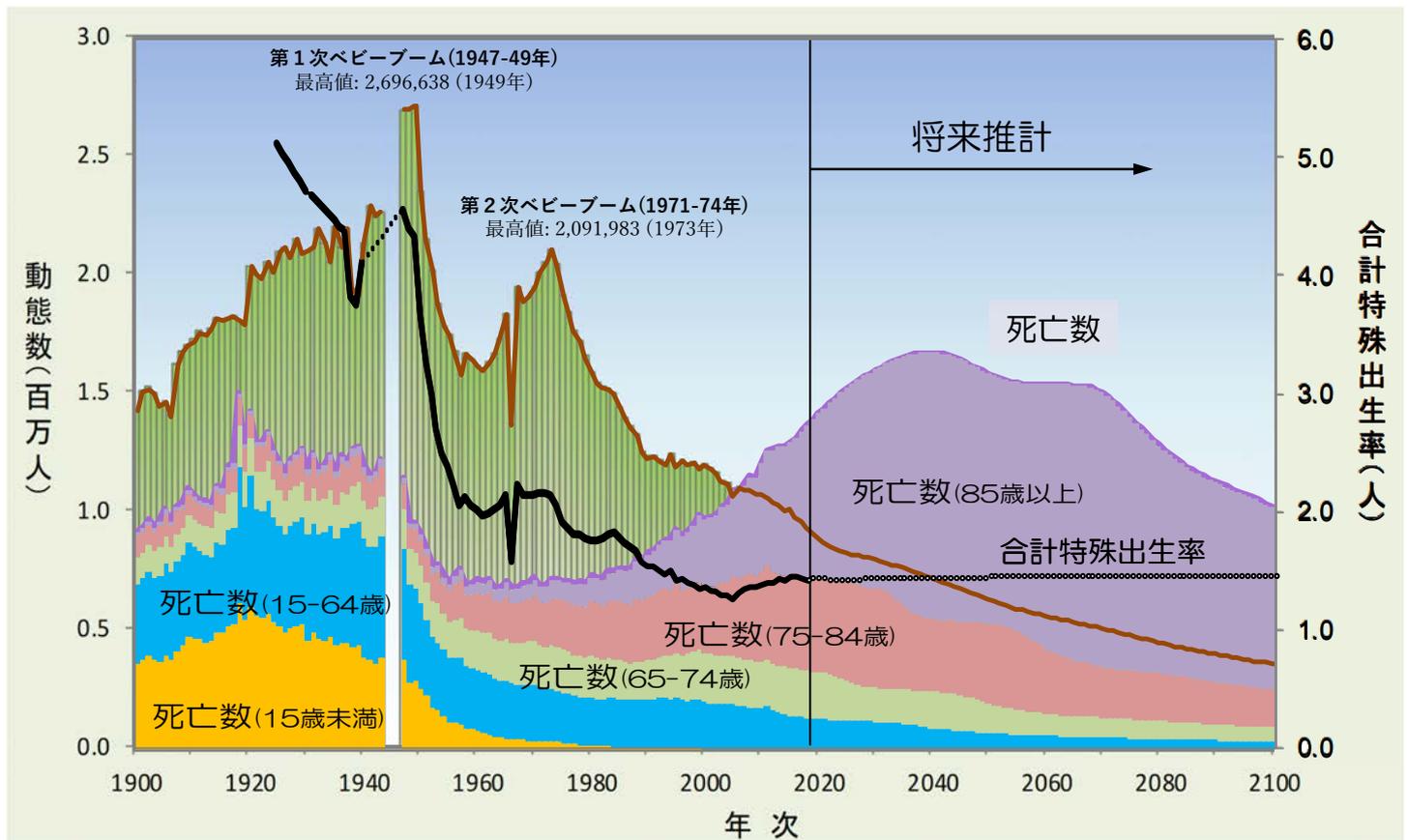


出生数、死亡数の長期推移（実績＋将来推計）：1900～2100年



注：1900～2018年は厚生労働省「人口動態統計」（客体は日本における日本人の事案）による実績値。2019～2100年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」出生中位・死亡中位推計による同客体における件数の将来推計値。

人口構造のトリック

人口減少・少子高齢化の留意点 2

(3) 出生率は“安定”でも、少子化が進行

- 今後は構造要因（少親化）による少子化が進む。
- 縮小世代がより小さな世代を生む 縮小再生産サイクルが開始した。

少子化スパイラルの開始

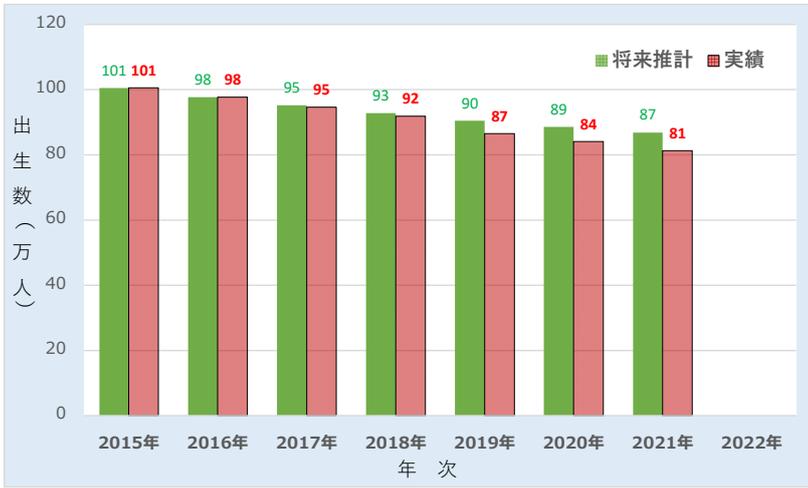
(4) 平均寿命は世界トップでも、多死社会が到来

- 現在、年間死亡数は年々増加中。2040年前後に160万人台でピークを迎える。
- とりわけ85歳以上の 超高齢層での死亡数増加が著しく、2040年前後には2010年の 約2.4倍となる。

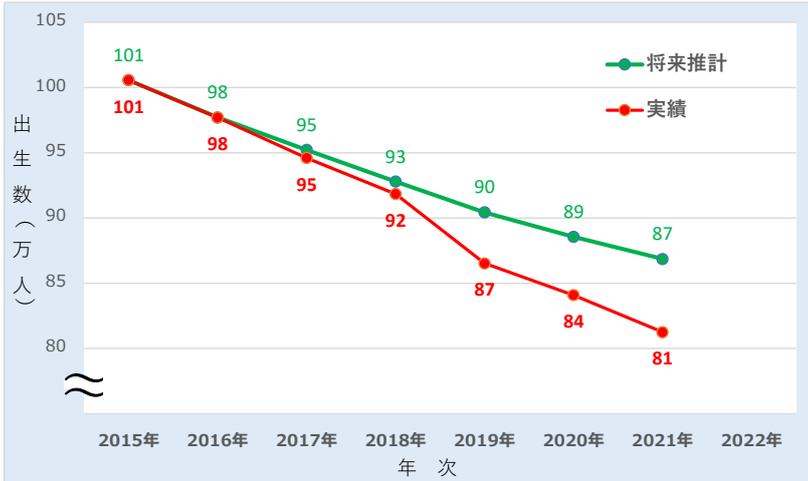
終末期介護・医療の需要が急増

出生数の将来推計値と実績の比較

出生数の見通しと実績の比較 2015～2021年



乖離の拡大図



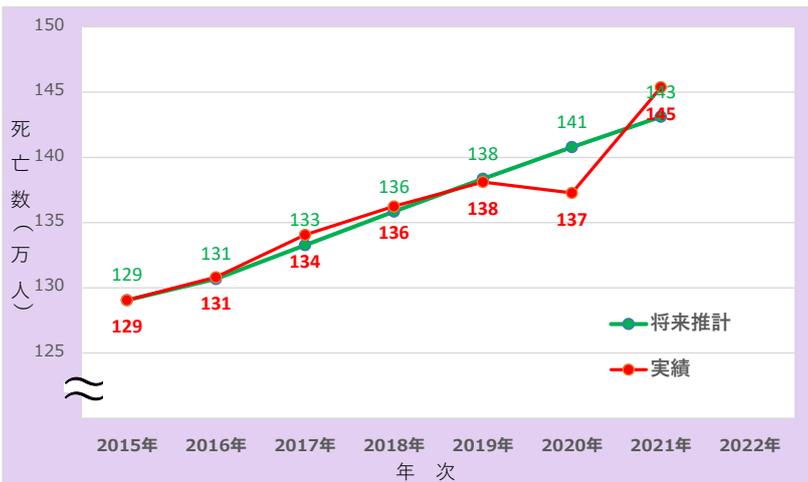
注：実績値：厚生労働省「人口動態統計」（客体は日本における日本人の事案）による。
将来推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」出生中位・死亡中位推計による同客体における件数。

死亡数の将来推計値と実績の比較

死亡数の見通しと実績の比較 2015～2021年



乖離の拡大図



注：実績値：厚生労働省「人口動態統計」（客体は日本における日本人の事案）による。
将来推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」出生中位・死亡中位推計による同客体における件数。

新型コロナの影響と見通し

(1) 出生数

- 2020年4～5月の緊急事態宣言下において、妊娠数が減ったほか、2021年1月前後の出生数が減少した。
- その後は出生数が回復したが、新型コロナとは別の要因で2019年以降、少子化が加速している。

→ 妊娠・出産に対する新型コロナの直接の影響は一時的なものであり、減少幅も限定的であるが、2019年以降新型コロナと関係のない要因によって少子化が加速しており、一方では家族形成期にある青年層において新型コロナによる社会的、経済的な影響を受けた人口が多いと見られ、これらが相まって少子化が想定より深刻になる兆候がみられる。

(2) 死亡数

- 新型コロナは、当初2020年においては、感染対策の進展等によりインフルエンザなど他の呼吸器感染症が抑制されたことから、死亡数を減らす結果となった。
- しかし、2021年にはその反動も含めて、従来の多死社会に向かう傾向に戻った。
- 一時期（2020.10前後）、女性の自殺が若干増えたことが懸念される。